

# 平成 30 年 長崎年表

**1月4日** 市議会議場で事務初め式と職員の成人式が行われた。

**1月5日** 市立図書館で同図書館の開館 10 周年記念式典が行われた。スタッフや関係者約 100 人が節目を祝った。

**1月6日** 西工場の隣接地に余熱を活用した屋内型施設「長崎市民神の島プール」がオープンした。シドニーオリンピック 100 年を背泳ぎの銀メダリスト中村真衣さんが泳ぎ初めを行った。

**1月7日** 市の消防出初め式が水辺の森公園などで行われた。市消防局や消防団などから約 3,000 人が参加した。

**1月8日** 長崎ブリックホールで成人式が行われ、約 2,500 人の新成人が集まった。市内の新成人は、昨年より 28 人少ない 3,846 人。

**1月12日** 2017 年ノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン（I CAN）」のベアトリス・フィン事務局長が初めて長崎市を訪問、原爆資料館で開幕した「I CANノーベル平和賞受賞記念展」のオープニングセレモニーであいさつした。また、同記念展では、I CANの活動などを紹介する展示のほかノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロ氏が田上市長にあてた返書も展示。

**1月16日** 長崎工業高校建築科 3 年生が国指定史跡「出島和蘭商館跡」内のミニ出島に作り直したカピタン部屋とヘトル部屋の模型を設置した。

**1月17日** 市消防局は管内における 2017 年の火災、救急の発生状況を発表した。火災発生件数は 104 件で 2016 年より 27 件減少し、救急出動件数は過去最多の 25,741 件だった。

**1月20日** 都市計画道路矢上町山手線が完成し、開通式が行われた。

**1月21日** 「第 18 回全国中学生創造ものづくり教育フェア創造アイデアロボットコンテスト」の活用部門で日吉中学校が優勝し、茂木中学校が準優勝した。併せて日吉中学校は文部科学大臣賞を、茂木中学校は審査員特別賞をそれぞれ受賞した。

**1月22日** 県連合遺族会（山下裕子会長）が今年、創立 70 周年を迎えた。これを記念した研修会が ANA クラウンプラザホテル長崎グラバーヒルであり、会員約 250 人が恒久平和の実現へ向け次世代の育成に励むことを確認した。

**1月28日** 昭和初期に長崎で布教したポーランド出身のコルベ神父の功績を長年伝えてきたカトリック修道士の小崎登明さんがポーランドの外務大臣名誉勲章「ベネ・メリト」を受章、長崎原爆資料館で授与式が行われた。

**1月30日** 市は、8月9日の平和祈念式典で奉安する原爆死没者名簿の登載基準を見直し、2月から爆心地から半径 12 ㎞以内の被爆地域外で原爆に遭った「被爆体験者」も加えると発表した。

**1月31日** 市は、2017 年 10 月に市役所本庁と出先機関の行政機能を再編したことを受け、集中豪雨時を想定した災害対策本部設置訓練を行い、新体制下での連携などを検証した。

**2月2日** 市の自治体消防発足 70 周年を祝う記念式が原爆資料館で行われた。

**2月3日** 長崎で被爆しながら救護活動に尽力した医師、故永井隆博士の生誕 110 年を記念する行事が原爆資料館で行われ、小学生から大学生まで若い世代が永井博士に関する学習の成果を発表した。

**2月4日** 任期満了に伴う長崎県知事選挙の投開票が行われ、現職の中村法道氏が 3 選を果たした。長崎市の投票率は 29.50 だった。

**2月6日** 被爆者健康手帳の交付を求めて提訴後に 93 歳で亡くなった男性が、市の原爆死没者名簿に記載されることとなった。これまでは被爆者健康手帳を所持していることが死没者名簿記載の条件だったが、遺族からの申請があれば原則記載するよう今月から基準が緩和された。遺族が死没者名簿への記載を申請し、受理された。

**2月9日** 県は 2017 年のクルーズ船の県内入港数を発表した。長崎港は 267 回で過去最多を記録した。

**2月13日** 文部科学省は国の重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」に赤首大野地区を追加選定し、国史跡「出島和蘭商館跡」に隣接 2 か所を追加指定したと

# 平成 30 年 長崎年表

官報で告示した。

**2月14日** 市は2018年度一般会計当初予算案を発表した。総額は約2,044億694万8千円で、前年度に比べ2.5%の減となった。

**2月14日** 長崎市議会は議会運営委員会で政務活動費の運用マニュアルを改定した。使途の領収書を市議会ホームページで公開することなどを柱とし、2018年度分の政務活動費から適用する。

**2月16日** 中国の春節(旧正月)に合わせて開かれる長崎ランタンフェスティバルが3月4日までの日程で開幕した。高さ10mのメインオブジェ「瑞獅戯球(ズイシーチョウ)」は、獅子が毬(まり)と戯れる様子を表現している。

**2月18日** 3月末で143年の歴史に幕を閉じる尾戸小学校で閉校記念式典が行われ、地域住民ら約500人が学びやとの別れを惜しんだ。

**2月21日** 市議会の2月定例会が3月15日までの日程で開会した。田上市長は、施政方針で、人口減少の克服と長崎創生の実現に向け「長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに取り組みを進めていく考えを述べた。

**2月24日** サッカーJリーグのJ1に昇格したVファーレン長崎が、開幕戦で湘南ベルマーレと対戦したが、2対1で敗れた。

**2月24日** 来日中のチリのバチェレ大統領が長崎市を訪れ、原爆資料館を見学し、原爆落下中心地碑と平和祈念像に献花した。

**2月24日** 長崎ランタンフェスティバルの皇帝パレードが市中心部で行われた。市は、この日皇后役を務める長崎市出身で「櫻坂46」の長濱ねるさんを市観光大使に任命した。

**2月28日** 2000年5月に開館した遠藤周作文学館の入館者数が50万人を突破した。

**3月1日** 市が2月1日付で登載要領を緩和した原爆死没者名簿について、市は原爆投下時に国が定める地域外にいた「被爆体験者」など、新たに対象となった22人の遺族から申請があり、いずれも認めたことを明らかにした。

にした。

**3月1日** サービス産業の労働組合の国際組織、UNI(ユニオン・ネットワーク・インターナショナル)本部のフィリップ・ジェニングス書記長が講演した。「UNIは平和のための組織」として核兵器廃絶と世界平和に向け、被爆地長崎と連携する姿勢を強調した。

**3月2日** 2006年にリニューアルオープンした国史跡「出島和蘭商館跡」の累計入場者数が500万人を達成。

**3月4日** 長崎の冬の風物詩、ランタンフェスティバルが閉幕した。期間中(17日間)の人出が前年比約12万人増の約106万人に上り、1994年に始まって以来、過去最高を記録した。

**3月4日** 長崎平和推進協会(横瀬昭幸理事長)は、JR長崎駅から銭座地区までの約1kmを歩く「原爆遺跡めぐり」を実施。約80人が防空壕跡などを見学し、被爆の実相を学んだ。

**3月5日** 市は保育士が園児に虐待をした市内2か所の私立保育所に対し、児童福祉法に基づく改善命令、改善勧告をそれぞれ出したことを明らかにした。

**3月5日** 東日本大震災発生から7年となる3月11日に合わせ、市は地域センターや公民館など市施設の計60か所で震災関連写真約500枚を16日まで展示する。

**3月5日** 市は5日までに、被爆75年の2020年に開催を予定する市内初のフルマラソン大会「長崎平和マラソン(仮称)」のコース案をまとめた。爆心地に近い市営陸上競技場周辺を発着点に長崎港を周回するコースで、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産などを眺望できる。

**3月7日** 国連人権理事会による日本の人権状況の審査について、日本政府は広島、長崎の被爆2世の健康問題などでの救済措置拡大と、核兵器禁止条約の署名を求めた勧告のいずれも拒否した。

**3月7日** 三菱重工業長崎造船所で建造された海上自衛隊の護衛艦「あさひ」(基準排水量約5,100t)の引き渡し式などが飽の浦町の同造船所本工場であった。あさひは、国の中期防衛力整備計画に基づき2隻配備される「あさひ」型の1番艦。

# 平成 30 年 長崎年表

**3月7日** 長崎市民生委員児童委員協議会（辻郷國昭会長）が、田上市長に民生委員制度 100 周年記念誌の発刊を報告した。

**3月9日** 原爆で児童ら 1,400 人以上が犠牲になった市立城山小学校の同窓会（朝永正剛会長）は、1950 年代に同校で編成された「原爆学級」に在籍した 7 人の手記を集めた「原爆学級記念文集」を製作した。当時の記憶や平和への思いがつつられており、同校に 50 部寄贈した。

**3月12日** 市は市議会環境経済委員会で、MICE（コンベンション）の誘致や受け入れ態勢を強化するため、田上市長をトップとする「市交流拠点施設検討推進本部」を庁内に設置したと報告した。

**3月12日** 市はふるさと納税をすれば保育料が減額される可能性があるとの誤った説明をした文書を、市内 129 か所の保育所などを通じて 1 万 622 世帯へ配布したと明らかにした。各世帯の保育料が確定する前に誤りに気付いたため誤徴収はなかったという。

**3月12日** 市は市議会環境経済委員会で、外国人居留地跡にあるオランダ坂の石畳（縦 15 ㎝、幅 4.5 ㎝）で一時的に剥ぎ取っていた板石を文化財課に相談しないまま廃棄していたと明らかにした。

**3月12日** 原爆投下後の長崎市を撮影した写真の収集、分析に取り組んでいる長崎平和推進協会写真資料調査部会の深堀好敏部会長（89）が今月末で退任することが同部会の会合で決まった。

**3月13日** 市教育委員会は、市立小学校で同日の給食「揚げたアジと野菜のあえ物」に U 字に曲がった針金（長さ約 1.5 ㍎、太さ約 0.5 ㍎）が混入していたと発表した。小学 6 年の女子児童が口に入れたが、すぐに出し、けがはなかった。

**3月14日** 県は「被爆体験者」の医療費受給資格について、現行の毎年更新を 4 月から 3 年に 1 回の更新に緩和することを明らかにした。

**3月14日** 市と西彼長与、時津両町の官民でつくる長崎地域雇用創造協議会は、市内で県特産のかんきつ類「ユウコウ」を使って開発したサイダーやゼリーなど新たな 4 つの土産品を公開し、集まった地元事業者に商品化を促した。

**3月14日** 県は 2017 年 10～12 月期の県観光動向調査の結果を発表した。主要観光施設の利用者数は、グラバー園で同 9.6 減の 26 万 3 千人

**3月15日** 市議会（定数 40）の野口達也議長(63)＝市民クラブ＝と筒井正興副議長(66)＝明政クラブ＝は 15 日、同日開会した定例市議会に「一身上の都合」を理由に辞職願を提出し、許可された。正副議長選が行われ、第 55 代議長に 4 期目の五輪清隆氏(62)＝市民クラブ＝、第 61 代副議長に 3 期目の浦川基継氏(45)＝明政クラブ＝を選んだ。

**3月15日** 広島原爆の爆心地近くの土を使って 1950 年ごろに作られた「原爆焼」の湯のみ 3 点が、長崎の被爆医師、故永井隆博士が晩年を過ごした如己堂などで確認された。

**3月15日** 市議会は、ノーベル文学賞を受賞した同市出身の英国人作家カズオ・イシグロ氏(63)を名誉市民とする議案に全会一致で同意した。

**3月16日** 市監査委員は、旧佐古小の旧校舍解体工事は市民財産の不当処分にあたるとして、市民団体の共同代表らが田上市長に解体工事などの費用の補填と仁田佐古小新校舎の建設工事差し止めを求めた住民監査請求について、請求を棄却した。

**3月16日** 市は地域の清掃に取り組む「市民協働環境美化推進（アダプトプログラム）事業」で、本年度は 6 つの企業・団体と“里親”の協定を結んだ。

**3月19日** クロアチアのドラジェン・フラスティッチ駐日特命全権大使が市役所に田上市長を訪ね、同国と長崎のさらなる交流促進を確認した。

**3月19日** 暴力追放や命の大切さをテーマに作品を募集した「暴力追放啓発書写コンクール」の表彰式が市役所であり、長崎東中 3 年の森未来さんら 7 人が各学年の最優秀特選に選ばれた。

**3月20日** 長崎市内の「まち歩き」を推奨する外国人観光客向けの英字フリーペーパー「NAGASAKI Cool」が創刊された。人気観光スポットの歴史や周辺の飲食店を紹介する記事、写真を掲載。

**3月20日** 出島の復元に向けた整備方針を審議する出島史跡整備審議会（植松俊徳会長）が市内であり、旧出

# 平成30年 長崎年表

島橋の復元や活用を検討する「旧出島橋保存活用委員会（仮称）」を設置することを了承した。

**3月21日** 総務省が発表した住民基本台帳に基づく2017年の人口移動報告で、県は転出者が転入者を上回る「転出超過」が5,883人に上り、都道府県別で全国ワースト6位だった。市町別では、長崎市の転出超過が1,888人で最多。前年から341人増え、全国の市町村でもワースト3位となった。同市は前年もワースト2位で、40年以上にわたって人口流出が続いている。

**3月21日** 長崎が舞台のオペラ「マダム・バタフライ（蝶々夫人）」をまちづくりに生かそうと、市などが主催した音楽イベント「マダム・バタフライフェスティバル」が20、21日の両日、長崎ブリックホールで開かれた。

**3月21日** 市民と行政が協働で長崎市の活性化に取り組んだ塾活動の成果を発表する「長崎伝習所まつり」が浜町アーケードであった。

**3月22日** 20代～70代の女性約30人が「女子目線」で長崎を盛り上げようと活動している「ナガサキマチナカ女子部」（阿部美和子部長）が、訪日外国人観光客向けに新大工、中通り、浜町、大浦の4地区の楽しい情報を発信する「おもてなし壁新聞」（A2判）を制作した。日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語が併記されており、今後各店舗に掲示される。

**3月22日** 長崎が舞台のオペラ「蝶々夫人」を作曲したプッチーニの故郷、イタリア・ルッカ市の訪問団が、市役所に田上市長を訪ね、オペラを通じた交流を呼び掛けた。市役所には、ルッカ市のルカ・ガッリ市長秘書室長をはじめ、在大阪イタリア総領事館のルイージ・デオダーティ総領事らイタリアの関係者9人が訪れた。

**3月23日** 遠藤周作文学館でこのほど、作家の故遠藤周作を愛好する周作クラブ長崎（高尾直子代表世話人、会員79人）が朗読劇「女の一生 一部・キクの場合」を披露した。朗読劇は遠藤の生誕95周年を記念して企画。

**3月24日** 英海運会社キュナードの豪華客船で“洋上の貴婦人”とも呼ばれる「クイーン・エリザベス」（9万900ト、全長294メートル）が2016年以来2年ぶりに長崎港に入った。

**3月24日** 非政府組織（NGO）核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委（朝長万左男委員長）は、市内で総会を開

き、今秋に開く国際会議「第6回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」のメインテーマを「核兵器のない世界をこの手に 禁止条約とICANノーベル平和賞を力に」とすることを決めた。

**3月25日** 開館16年目の長崎ペンギン水族館の入館者が400万人を突破し、記念セレモニーで節目を祝った。

**3月26日** 市は東日本大震災などの復興支援や関係省庁との連携強化のため、4月から来年3月まで被災地の自治体や関係省庁へ派遣、または配置する職員12人に辞令を交付した。

**3月27日** 国土交通省が発表した公示地価（1月1日現在）によると、市内の商業地は前年の2.9%増から6.5%増となり、4年連続プラス。駅前の幹線道路沿いにある五島町がトップの19.7%増、宝町も15.6%増と上昇幅が前年から倍増した。住宅地は0.9%増で、上昇率1位は上西山町9.9%増。

**3月27日** 長崎商工会議所は長崎商工会館で通常議員総会を開き、産官学のトップが地域経済の浮揚策を話し合う「長崎サミット」との連携強化など2018年度の事業計画を決めた。サミット関連のプロジェクトを支援する「長崎都市経営戦略支援協会」に2020年度までに毎年1千万円を支出する。

**3月27日** 県は、昨年のクルーズ客船の県内への入港数が365回、乗員乗客数が119万8901人となり、いずれも4年連続で過去最多を更新したと発表した。

**3月27日** 長崎大水産学部と、長崎ペンギン水族館を運営する一般財団法人「長崎ロープウェイ・水族館」は、海洋生物研究や人材育成で協力する連携協定を結んだ。国内有数のペンギンの飼育、繁殖技術を同学部のノウハウを生かしてデータベース化を図る。

**3月28日** 定例県議会は最終本会議で、英国人のノーベル文学賞作家のカズオ・イシグロ氏(63)を名誉県民に選定する議案に全会一致で同意した。イシグロ氏は5歳で渡英するまで長崎市で過ごし、同市も名誉市民に選定している。

**3月29日** 九州新幹線長崎ルートを巡り、長崎県商工会連合会（宅島寿雄会長）は、佐賀市の佐賀県商工会連合会を訪れ、一般の新幹線と同じ「フル規格」での整備促進への協力を要請した。

# 平成 30 年 長崎年表

**3月30日** 市教育委員会は新年度から、平和教育で活用する教員向けの「手引書」を初めて導入する。手引書は識者からの助言を受けてまとめ、近く市内の教員に配布する。手引書案では平和教育の基本方針として▽被爆体験の継承▽平和の発信▽平和の創造を明記。継承と発信は従来の平和教育の柱だったが、どうすれば平和が実現するかを子どもたちに主体的に考えてもらう「創造」を新たに加える。

**4月1日** 原爆関連の写真の収集・調査や写真展を手掛ける長崎平和推進協会写真資料調査部会の松田斉さん(62)が3代目の部会長に就任した。

**4月1日** 約250年にわたる宗教弾圧を経て守り継がれた日本独自のキリスト教の歴史を伝える「大浦天主堂キリシタン博物館」が開館した。

**4月4日** 核兵器廃絶を求める署名を国連欧州本部に届ける高校生平和大使の第21代メンバーに、県立長崎西高2年の徳永雛子さんと県立諫早高2年の山西咲和さんが選ばれた。

**4月5日** 県と県内21市町の窓口を通じて2017年4～12月に県外から県内に移住した人は551人で、過去最多だった2016年度(454人)を既に上回ったことが、県のまとめで分かった。市町別では、佐世保市117人、五島市73人、平戸市57人、長崎市51人などの順。

**4月6日** 熊本地震発生から2年を前に、市は地域センターや公民館など市施設の計61か所で震災関連写真の展示を始めた。

**4月6日** 県内の多くの公立小中学校で始業式があり、児童生徒がそれぞれの目標を胸に、新しい学年のスタートを切った。

**4月7日** 国際ソープチミスト長崎は市に出島の説明版を寄贈。国史跡「出島和蘭商館跡」の表門前に設置された。

**4月7日** 長崎港にクルーズ船の中でも最上位クラスの豪華客船を運航するクルーズ会社、ウィンドスター・クルーズ(米シアトル)の客船、スター・レジェンド(9,961ト)が、県内初入港した。

**4月9日** 天神町の九州新幹線長崎ルート建設現場から見つかった15か所の防空壕跡について、近隣住民らが、

保存を求める連絡会を結成した。

**4月10日** 九州新幹線長崎ルート整備を巡り、長崎、佐賀の両県の沿線5市の市長らが、国土交通省や自民党本部などを訪れ、全線フル規格での整備を要望した。

**4月10日** 2022年度の開業を予定している九州新幹線長崎ルートの建設を進める独立行政法人「鉄道建設・運輸施設整備支援機構」が、土地収用法に基づき、未取得用地の強制収用を可能にする事業認定を国土交通省から受けたことが分かった。

**4月10日** 県内の多くの公立小学校で入学式があった。新1年生は新しい生活への期待を胸に、保護者と共に学びやの門をくぐった。

**4月11日** サッカーのV・ファーレン長崎は、静岡市のI A I スタジアム日本平で行われた明治安田J1第7節の清水戦に1-0で勝ち、今季参入したJ1リーグで初勝利を飾った。

**4月14日** 最大震度7を最初に観測した熊本地震の「前震」から2年となった14日、市内でも市役所などに弔旗が掲揚され、追悼のサイレンが響いた。

**4月15日** 2007年4月に伊藤一長市長射殺事件が起きた15日、暴力のない安全安心な社会の実現を目指す「暴力追放『いのちを守る』長崎市民集会」が開かれ、地域住民や防犯団体関係者ら約千人が街頭パレードなどを通じ決意を新たにした。

**4月16日** 旧市立佐古小学校舎の耐震補強費と解体費計約2億7千万円を補てんするよう田上市長に求めた住民監査請求が棄却されたのは不当として、市民団体「養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会」は住民訴訟を長崎地裁に起こした。

**4月16日** 市立式見中と市立小江原中の統廃合を巡り、「式見小学校・中学校歴代PTA会長の会」の川勝俊隆代表らは、市役所に馬場教育長を訪ね、式見中の存続を求める要望書と式見地区の住民らから集めた2015筆の署名を提出した。

**4月17日** 被爆者健康手帳交付申請の却下処分取り消しを求める訴訟について最高裁が昨年12月、提訴後に原告が死亡しても引き継ぐことができると初めて判断し、原爆投下直後に長崎市に入り被爆した可能性があるとし

# 平成 30 年 長崎年表

た被爆体験者の上戸満行さん＝提訴後の 2011 年 3 月に 81 歳で死去＝の差し戻し審第 1 回口頭弁論が長崎地裁（武田瑞佳裁判長）であった。

**4 月 18 日** 県外の修学旅行生に被爆遺構を案内する専門の「長崎平和ガイド」が、初めての活動を行った。長崎国際観光コンベンション協会が今月導入し、214 人が登録。この日はガイド 4 人が岡山県の中学 3 年生 40 人に爆心地公園や浦上天主堂などを案内し、原爆被害について解説した。

**4 月 18 日** 松が枝町の「軍艦島デジタルミュージアム」は、20 日の一部リニューアルオープンを前に関係者内覧会を現地で開いた。

**4 月 18 日** 三菱造船（横浜市）は建造中の次世代液化天然ガス(LNG)運搬船の命名式を飽の浦町の長崎造船所本工場で行った。「ダイヤモンドガスオーキッド」と命名した。

**4 月 19 日** 市から 2017 年度に市民活動支援補助金を受けた市民団体の活動報告会がこのほど、市男女共同参画推進センター・アマランスであり、13 団体が成果を発表した。

**4 月 19 日** 諏訪神社の大祭「長崎くんち」で明治初期まで約 200 年間使用されたみこしが、140 年の時を経て故郷の長崎に戻った。1878 年からみこしを所蔵していた福岡県柳川市の三島神社が長崎市へ寄贈したことが分かった。

**4 月 19 日** 長崎市の春を彩る「長崎帆船まつり」（実行委主催）が長崎水辺の森公園など長崎港一帯で開幕した。5 隻が参加予定だったが事故や故障などで過去最少の 3 隻が参加。

**4 月 20 日** 九州新幹線長崎ルート建設現場の天神町で確認された防空壕群について、市民団体などでつくる「銭座防空壕群を保存する連絡会」は、建設工事発注元の鉄道・運輸機構九州新幹線建設局に保存を求める要望書を提出した。

**4 月 20 日** 長崎署は、他人のガソリン代の領収書を使って政務活動費をだまし取ったなどとして、詐欺と虚偽有印公文書作成・同行使の疑いで長崎市議会の吉原日出雄議員(60)を書類送検した。

**4 月 20 日** ラグビーの 2019 年ワールドカップ(W杯)日本大会組織委員会は、出場チームが 1 次リーグで使用する公認キャンプ地に、22 都道府県の 59 自治体、52 件が内定したと発表した。本県からは共同応募した県と市がスコットランド代表のキャンプ地に選ばれた。

**4 月 20 日** 片淵 2 丁目の市指定史跡「心田庵」の一般公開が始まった。

**4 月 24 日** 午前 7 時半ごろ、メルカつきまちの北口玄関上の外壁タイルが、縦 7 ㎝横 6 ㎝にわたって崩落した。当時通行人はおらず、けが人はなかった。

**4 月 24 日** 三菱重工業は長崎造船所幸町工場の跡地活用の公募について、サッカー J1、V・ファーレン長崎専用スタジアム建設を提案したジャパネットホールディングス（佐世保市）などの企業グループを優先交渉権者に選定したと発表した。

**4 月 25 日** ジュネーブで行われている 2020 年の核拡散防止条約(NPT)再検討会議に向けた第 2 回準備委員会で、長崎市の田上市長と広島市の松井一美市長が演説し、核兵器禁止条約参加や「核なき世界」への前進を促した。

**4 月 25 日** 国の登録有形文化財で上西山町の老舗料亭「富貴楼」が老朽化に伴い解体予定であるのを受け、市は景観重要建造物としての指定を解除する方針を市景観審議会に諮り、委員から異議は出なかった。

**4 月 25 日** マイナンバー制度を巡り、県内で「個人番号カード」を交付された人の割合は 3 月末現在で 10.9 にとどまっていることが分かった。長崎市の交付率は 11.6 だった。

**4 月 26 日** 昨年のノーベル平和賞を受賞した非政府組織(NGO)「核兵器廃絶国際キャンペーン(I CAN)」の運営団体の一つ「ピースボート」（東京）は、平和賞のメダルと賞状の公式レプリカを今夏、長崎市の長崎原爆資料館と広島市の広島平和祈念資料館でそれぞれ展示する方針を明らかにした。

**4 月 27 日** 長崎市の観光親善大使「ロマン長崎」の選彰式が、長崎商工会議所であり、2018 年度は泉菜月さん、鈴木花澄さん、松永千幸さんの 3 人が選ばれた。

**4 月 27 日** 九州新幹線長崎ルートの新鳥栖－武雄温泉

# 平成 30 年 長崎年表

間の整備方法を巡り、中村法道知事は与党検討委員会に出席し、「既存インフラを最大限活用でき、西九州地域の発展に最も寄与する」として、全線フル規格での早期整備を求めた。

**5月1日** 原爆に遭いながら救護に奔走した医師、故永井隆博士の生誕110年記念追悼祭が坂本国際墓地であった。

**5月2日** 田上市長は、パチカンのサンピエトロ広場でローマ法王フランシスコの一般謁見に参列し、長崎・広島への訪問を要請した。

**5月2日** 核兵器廃絶を求める署名を毎年夏に届けている「高校生平和大使」が2日までに、ノーベル平和賞の候補になった

**5月4日** 政府は国連教育科学文化機関（ユネスコ）諮問機関の国際記念物遺跡会議（イコモス）が、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を世界文化遺産に登録するよう勧告したと発表した。

**5月9日** 県や市、県医師会などでつくる「長崎・ヒパクシャ医療国際協力会(NASHIM)」は、長崎原爆に関する漫画冊子を初めて製作した。原爆資料館などで無料配布する。

**5月9日** 市がJR長崎駅西側に建設を計画している交流拠点施設を巡り、優先交渉権者の「九電工グループ」の構成員だった鹿島建設を戸田建設に変更することを認めたと発表した。

**5月10日** 市教育委員会は、市立小学校1校の給食の材料の豆腐に、長さ12<sup>ミリ</sup>の金属繊維が混入していたと発表した。校内で調理中に見つかり、豆腐は児童に提供しなかった。

**5月10日** 市は市内の飲食店ですしやてんぷらなどを食べた客14人がおう吐や発熱などの食中毒症状を示したとして、食品衛生法に基づき同店を1日間の営業停止処分にしたと発表した。

**5月12日** 市は長崎原爆の日の平和祈念式典で田上市長が読み上げる平和宣言の第1回起草委員会を市内で開いた。委員らは朝鮮半島非核化協議の進展が期待される6月の米朝首脳会談の結果や、日本に対する核兵器禁止条約への署名呼びかけを盛り込むべきと訴えた。

**5月12日** 国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関が世界文化遺産登録を勧告した「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の「世界遺産登録を願うシンポジウム」が市内で開かれた。

**5月13日** 今年1月に開館10年を迎えた長崎市立図書館の入館者数が1,000万人を突破した。

**5月15日** 市は交付した被爆者健康手帳の所持者数が2017年度末時点で前年度比1,749人減の29,064人と、初めて3万人を切ったと明らかにした。

**5月17日** 長崎市の市民団体が住民投票条例制定に向けて署名活動をした期間中、地方自治法が定める「署名運動妨害」などを行ったとして、田上市長と関係課長ら市職員6人を告訴した問題で、長崎地検は7人を不起訴処分にしたと発表した。

**5月18日** 市は江戸時代の鎖国期に海外との唯一の交易拠点とされた出島の玄関口と対岸を約130年ぶりに結んだ「出島表門橋」が、公益社団法人土木学会が優れた特色を持つ橋を顕彰する2017年度の「田中賞」を受賞したと発表した。

**5月21日** 国土交通省より平成30年都市景観大賞の発表があり、深堀地区が優秀賞を受賞した。

**5月21日** 市は市内の男性が腸管出血性大腸菌O157に感染したと発表した。

**5月22日** 大規模災害発生に備えた本年度の長崎市総合防災訓練が長崎東公園（戸石町）であり、自衛隊や海上保安部など官民37機関の約940人が、地震時の避難誘導方法や救出活動などを実践した。

**5月22日** 長崎市及び長与、時津両町の官民でつくる長崎地域雇用創造協議会が立ち上げ、長崎特産のビワやユウコウを使った土産品を開発する「長崎元気お土産プロジェクト」の本年度第1回検討委員会が県勤労福祉会館であった。

**5月24日** 市は定期予防接種事業で幼児15人に有効期限切れのワクチンを接種したと発表した。接種前に医師や看護師が期限を確認しなかったことが原因で、これまでに健康被害はでていない。

**5月24日** 梅雨入りを前に市は本年度の防災合同パト

# 平成 30 年 長崎年表

ロールの出発式を市役所本館西側広場で開いた。消防局や建築指導課など職員 39 人が、老朽化した空き家や落石の恐れがある地域など計 22 か所をパトロールした。

**5月24日** 原爆の日を前に、市は 175,796 人分の原爆死没者名簿 179 冊を、保管している国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で風通しした。

**5月25日** 市教委は、市立小学校内で 25 日に調理していた給食の材料のパイナップルに、複数の金属くず(約 1 ミリ)が混入していたと発表した。調理中に見つかり、児童に提供しなかった。

**5月25日** 市は市内の 60 代男性がマダニによって重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に感染したと発表した。高熱やリンパ節が腫れる症状があり、入院して治療を受けている。

**5月27日** 修学旅行中の鹿児島市の中学生と教諭の計 28 人が福岡市で食中毒症状を訴えた問題で、市は市内の飲食店の昼食が原因と断定し、店を 27 日からの 3 日間の営業停止処分にした。

**5月28日** 市は 8 月 9 日の「長崎原爆の日」の平和祈念式典で「平和への誓い」を読み上げる代表者に、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員で、長崎で被爆した田中熙巳(てるみ)氏を選定したと発表した。

**5月28日** 8 月 9 日の平和祈念式典で奉安される原爆死没者名簿に、昨年 8 月 1 日以降に死亡が確認された被爆者らの名前を記載する「筆耕」が市役所で始まった。今年は被爆体験者を含む約 3,500 人分が書き加えられる。

**5月28日** 県内の自治体や経済団体など 227 団体でつくる「長崎新幹線・鉄道利用促進協議会」(会長・中村知事)は、九州新幹線長崎ルートは全線フル規格による整備が「最善の選択肢」とし、自治体の負担軽減のための制度を創設するよう国に求める決議を採択した。

**5月28日** 日本非核宣言自治体協議会(会長・田上市長、338 自治体)は日本政府に対し、核兵器禁止条約への参加や、日本と朝鮮半島を非核化する「北東アジア非核兵器地帯」構想実現を求める決議を採択した。

**5月28日** 市教委は公立小中学校の通学費補助対象を今年度から拡大したことを、市立学校通学区域審議会の会合で報告した。

**5月29日** 市は今年度から、各地域の自治会や敬老会、PTAなどが連携してまちづくりに取り組む「地域コミュニティ」を支援する事業を始めた。そのモデル地区となったのは茂木、式見、土井首、深堀、横尾、ダイヤランドの 6 地区。6 地区の代表が取り組みを発表した。

**6月1日** 教育委員会は高校生等入学給付金の申請の受付を開始した。

**6月1日** サッカーの世界カップロシア大会に出場する日本代表メンバーに、長崎市出身の DF 吉田麻也選手が選ばれたことを受け、市役所本館に吉田選手を激励する看板を掲示した。

**6月5日** 市は田上市長が 5 月 2 日にバチカンでローマ法王フランシスコの一般謁見に参列し、松井広島市長との連名で手渡した被爆地訪問を要請した親書に対し、返書が届いたと発表した。被爆地の取り組みへの謝辞が書かれていたが、被爆地訪問への言及はなかった。

**6月5日** 県市長会の会長を務める田上市長ら県内の市長が東京都内で地元選出の国会議員らとの国の政策に関する意見交換会に臨んだ。市長会が重点項目として挙げる九州新幹線長崎ルートの整備について、「最善の選択肢」として全線フル規格での整備の検討を要請。これに対し、地元国会議員は「財源確保が難しい状況」などと応じた。

**6月7日** 市は、2017 年の観光統計を発表した。観光客数は 16 年より 35 万 4,200 人(5.3%)多い 707 万 7,700 人で、4 年連続過去最多を更新。観光消費額も前年より約 145 億円(11%)多い 1,458 億 4,615 円で過去最高となった。

**6月7日** 市議会は定例会議で、政務活動費を不正受給した詐欺の疑いで書類送検された吉原日出雄市議に対し、2 度目の議員辞職勧告決議案を全会一致で可決した。

**6月12日** 国土交通省は、2017 年にクルーズ船が日本に寄港したのは前年比 37.0%増の 2,764 回だったと発表した。寄港回数を港別にみると、博多港が 326 回で 3 年連続首位。長崎港 267 回、那覇港 224 回と続いた。

**6月18日** 市は定例会議総務委員会で、土地や家屋などに課す「固定資産税」と、それを基に算出する「都市計画税」について過徴収と誤徴収が約 100 件あり、約



# 平成 30 年 長崎年表

2 千万円を返還することを明らかにした。

**6 月 19 日** 定例市議会環境経済委では、市が J R 長崎駅西側で計画している M I C E 施設を含む複合施設の整備予算案を巡り、施設を整備・運営する予定の企業グループから参考人が出席。他施設との機能重複を懸念する複数の委員の質問に対し、ターゲットが異なり、「すみ分けできる」との見解を示した。

**6 月 19 日** サッカーワールドカップの日本代表対コロンビア戦で、長崎市出身の D F 吉田麻也選手の後援会関係者やファンら約 130 人が男女共同参画推進センター・アマランス内のパブリックビューイング会場に集まり熱い声援を送った。日本代表はコロンビアに 2 対 1 で勝利した。

**6 月 20 日** 定例市議会環境経済委では市が J R 長崎駅西側で計画している M I C E 施設を含む複合施設の整備予算案を巡り、アリーナの整備を検討しているジャパネットホールディングス（佐世保市）の高田旭人社長が参考人として出席。M I C E 施設との機能重複が懸念されているアリーナの整備について、施設が競合しないよう市と連携する考えを示した。

**6 月 20 日** 梅雨前線の湿った空気の影響で、県内では 19 日夜から 20 日朝にかけて、南部を中心に雷を伴う激しい雨が降った。市内民家裏の石垣が崩れ、窓ガラスを割るなどの被害もあった。

**6 月 21 日** 大阪府北部地震で小学校のブロック塀が崩れ、死亡したことを受け、市教委は定例市議会教育厚生委員会で現状を報告。2015～17 年度に市立小中高の全 107 校を点検し、ブロック塀に亀裂や破損などを 28 校で確認し、うち 18 校では対応していないと明かした。市教委が近く 18 校を現地調査する。

**6 月 22 日** 政府は公共施設や住宅を中心部に集めるコンパクトシティや公共交通網の再構築に取り組む都市のモデルとして、長崎市など 11 市を選んだ。

**6 月 23 日** 2022 年度の完成を目指す市役所新庁舎の市民向けシンポジウムが市内であり、市民ら約 150 人が参加した。市の担当者が旧公会堂跡地に地上 19 階建ての庁舎を建設する基本設計を説明した。

**6 月 25 日** 田上市長は吉原日出雄議員が 2017 年度に鉄道とバス運賃の名目で虚偽の政務活動費を請求し計約

8 万 6 千円をだまし取ったとして、虚偽有印公文書作成・行使と詐欺の疑いで長崎署に刑事告訴した。

**6 月 26 日** 定例市議会は最終本会議を開き、M I C E の整備費などを盛り込んだ 72 億 7,800 万円の本年度一般会計補正予算案など 17 議案を原案通り可決、同意し、閉会した。

**6 月 29 日** 政府は 2020 年東京五輪・パラリンピックの海外選手と地域住民が交流する「ホストタウン」に福島、長野、岐阜、愛媛、長崎、鹿児島各県の自治体が申請した 7 件の計画を第 8 次登録として追加認定した。長崎県からは県と長崎、大村両市が、歴史的につながりが深く現在も交流があるポルトガルのホストタウンとして登録。

**6 月 30 日** 中東バーレーンで開催中の国連教育科学文化機関（ユネスコ）第 42 回世界遺産委員会は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録を決定した。

**7 月 1 日** 長崎市で 2003 年、4 歳男児が中学 1 年の少年＝いづれも当時＝に誘拐、殺害された事件から 15 年となった 1 日、万才町の現場近くに設置された献花台と地藏堂では市民や市職員らが花などを手向け、男児を悼んだ。

**7 月 1 日** 作家、遠藤周作（1923～96 年）に関する資料を展示する長崎市遠藤周作文学館（東出津町）がリニューアルオープンした。旧喫茶室「アンシャンテ」が雄大な海を眼下に、遠藤文学の世界に浸ることができる思索空間に生まれ変わった。

**7 月 2 日** 長崎市の国指定史跡「長崎原爆遺跡」の調査検討委員会は原爆資料館で会合を開いた。中村明俊同館長は五つの原爆遺跡のうち調査が比較的進んでいる「山王神社二の鳥居」（坂本 2 丁目）と「爆心地」（松山町）を軸に、被爆 75 周年となる 2020 年にそれぞれ国指定の範囲を拡大できるよう調査・検討を進める方針を示した。

**7 月 2 日** 長崎税務署は、県内の路線価（1 月 1 日現在）を公表した。1 平方メートル当たりの路線価が最高だったのは浜町の浜市アーケードの 740,000 円（前年比 1.4 割高）で、1992 年以来 26 年ぶりに上昇に転じた。

**7 月 3 日** 県と市は昨年 12 月にノーベル文学賞を受賞

# 平成 30 年 長崎年表

した英国人作家のカズオ・イシグロさんに対する名誉県民、名誉市民称号の授与式をロンドンで開いた。

**7月3日** 台風7号の被害が各地で相次いだ。神ノ島町3丁目にある自動車整備会社の倉庫が倒壊し、近くの建物や車にあたった。高浜町では、木造2階建てのアパートの屋根が飛ばされた。淵町では駐車場の斜面（高さ約10m、幅約3~4m）が崩れ、車が土をかぶった。いずれもけが人はなかった。最大瞬間風速38.1m/sを観測した脇岬町では、電線が道路に落ち、大型車などが一時通行止めになった。九州電力長崎支社によると、午後6時までに長崎市や佐世保市、五島市、西海市などで最大計約61,000戸が停電した。

**7月3日** 市役所で職員に包丁を突きつけたとして、暴力行為等処罰法違反などの罪に問われた無職の男の判決で、長崎地方裁判所は、懲役1年、執行猶予3年（求刑懲役1年）の判決を言い渡した。

**7月4日** 広島、長崎に投下された原爆で被害を受け被爆者健康手帳を持つ人は3月末現在で154,859人（前年度比9,762人減）となったことが厚生労働省の調査でわかった。このうち、広島、長崎などにいた「直接被爆者」は96,365人と、初めて100,000人を割り込んだ。直接被爆者以外では、投下2週間以内に爆心地から2km以内に入って被爆した人が34,257人、胎内被爆者が7,061人となった。

**7月5日** 台風7号が県内を通過したのに伴い、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の一つ「端島炭坑（軍艦島）で栈橋や見学ルートの柵が壊れたとの報告があった。復旧工事が完了するまで観光客の上陸を禁止した。一方、国内最古の鉄筋コンクリート造りの高層アパート「30号棟」など建造物に目立った被害はなかった。

**7月5日** 長崎地方気象台によると、5日午後0時40分までの1時間に野母崎で40.5mmの激しい雨を観測した。大浦署によると、小ヶ倉町2丁目の民家そばののり面が幅約10m、高さ約5mにわたって崩れた。

**7月6日** 昭和初期から約90年にわたり長崎市民に親しまれていた市指定天然記念物「長崎公園のトックリノキ」が枯死した。国内のトックリノキとしては最古、最大級だったという。市が6日発表した。

**7月9日** FWD富士生命保険は、常盤町に置いているコールセンターを出島町のオフィスビル「クレインハ

ーバー長崎ビル」に移転するため、県、市と立地協定を結んだ。

**7月9日** 西日本を中心とする豪雨被害を受け、長崎、佐世保両市は、水道局職員や給水車などを広島県三原市へ派遣した。

**7月9日** 福岡管区気象台は、本県を含む九州北部地方が梅雨明けしたとみられると発表した。平年と比べ10日、昨年より4日早かった。

**7月10日** 市は、市内の中小企業の採用活動に対する補助制度を創設した。市内に本社や事業所があり、20代半ばまでの若年層を採用する企業が対象。ホームページ作成やインターンシップ促進、職場環境改善に向けた研修会などに関し20万円を上限に経費の半額を補助する。

**7月11日** 九州新幹線長崎ルートの新鳥栖-武雄温泉間の整備をめぐり、長崎・佐賀両県の沿線5市の市長、市議会議長が国土交通省や自民党本部などを訪れ、全線フル規格での整備を要望した。

**7月17日** 被爆75年の節目を迎える2020年に、初めて市内でフルマラソン開催を目指す「長崎平和マラソン実行委員会」の設立総会と第1回総会が市内であった。

**7月18日** 広島、長崎両県市の知事・市長と議会議長でつくる「広島・長崎原爆被爆者援護対策促進協議会（八者協議会）」は、より被爆者救済の立場で原爆症認定制度を運用することや制度の見直しを求める要望書を、厚生労働省に提出した。

**7月18日** 伊王島町1丁目のリゾート施設「アイランドナガサキ」（旧やすらぎ伊王島）がグランドオープンした。やすらぎ伊王島の指定管理者だった総合レジャー開発のカトーレジャーグループ（KPG）の加藤友康代表取締役兼CEOは開業セレモニーで「長崎の名所、地方創生のモデルになるよう努力する」と決意を語った。

**7月19日** 九州新幹線長崎ルート 新鳥栖-武雄温泉間の整備手法について、与党の検討委員会は検討していた「フル規格」と「ミニ新幹線」の2つの整備方法のどちらにするかの決定を先送りすることを決めた。多額の財政負担を拒む佐賀県と折り合いがつかず、負担軽減に向けた議論がさらに必要と判断した。

**7月23日** 299人の死者・行方不明者を出した1982年

# 平成 30 年 長崎年表

の長崎大水害から 36 年となる 23 日、午前 11 時にサイレンが鳴り響き市民が黙とうをささげて犠牲者を追悼した。

**7 月 25 日** 市は 25 日から 8 月 7 日までの 2 週間、西日本を中心とする豪雨災害で被害を受けた岡山県倉敷市へ事務系職員 3 名を派遣する。他県の派遣職員らと協力して避難所を運営し、被災者を支援する。8 日以降も職員を派遣し、8 月末まで支援を続ける。

**7 月 25 日** 観光庁から外国人旅行者を地方に呼び込むモデル都市「観光立国ショーケース」に選ばれた北海道釧路市、金沢市、長崎市の 3 市長が釧路市内で誘致の取り組みについて話し合った。

**7 月 25 日** 消防局は管内で発生した火災による死者数が 8 人（同日時点）で前年同期より 4 人増え、昨年 1 年間の死者と同数になったと発表した。

**8 月 1 日** 路面電車の電停 13 か所の名称が一新された。市外から多くの人が集まる場所と電停名を一致させることで利便性を高めた。全体の 3 分の 1 にあたる電停 13 か所の名前を同時に変えるのは過去最大規模。「浜口町」が「原爆資料館」、「賑橋」が「めがね橋」などになった。

**8 月 1 日** 長崎原爆の日を前に、田上市長と五輪市議会議長は、日赤長崎原爆病院と恵の丘長崎原爆ホームを慰問した。

**8 月 8 日** 9 日に開かれる平和祈念式典に参列するため長崎市を訪れた国連のグテレス事務総長が市内のホテルで長崎と広島の実験者団体代表や田上市長らと面会した。

**8 月 8 日** 長崎原爆の日を前に、来日中の包括的核実験禁止条約（CTBT）機構準備委員会のラッシーナ・ゼルボ事務局長や、各国の駐日大使などが長崎市へ入った。平和公園では 47 か国の駐日大使らが献花した。

**8 月 8 日** 昨年、非政府組織（NGO）「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」に贈られたノーベル平和賞のメダルと賞状の公式レプリカの展示が原爆資料館で始まった。

**8 月 9 日** 原爆投下から 73 回目の「原爆の日」を迎え、平和公園で平和祈念式典が営まれた。田上市長は「長崎平和宣言」で政府に対し、核兵器禁止条約への賛同を求めた。国連の事務総長としては初参列のグテレス事務総

長は式典あいさつで、多くの国が賛同し核禁条約が採択されたことは、核軍縮が停滞している現状への「不満」との見方を示した。一方、安倍首相は式典あいさつでは条約には触れず、政府が昨年設置した有識者による「賢人会議」を長崎で開き、具体策を探る方針を表明した。式典には遺族や被爆者、核保有国を含む 71 カ国の大使ら約 5,200 人が参列した。

**8 月 17 日** 市は人気ロックバンド「ストレイテナー」のメンバーで、同市出身のホリエアツシさんとナカヤマシンペイさんを市観光大使に任命した。

**8 月 19 日** 市は市民団体の発想で地域の課題解決を目指す「市提案型協働事業」の 1 次審査会を市内で開いた。応募した 4 団体の代表者が、学識者でつくる審査員に事業計画や必要性などを説明した。通過した団体は 2 次審査に進み、来年度の事業実施を目指す。

**8 月 23 日** 台風 19 号の影響で、市は世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」を構成する「端島炭坑」（軍艦島）で、棧橋と島を結ぶ連絡橋の手すりや壊れる被害が出たと発表した。市が現地を確認したところ、長さ 12 ㍎の手すりのうち約 4 ㍎が壊れて海側に傾いていた。

**8 月 24 日** 米国のオバマ前政権で核政策担当大統領特別補佐官を務めたジョン・ウォルフスタール氏が、市役所に田上市長を表敬訪問し、今後も核兵器廃絶に向かって取り組んでいくことを確認した。

**8 月 24 日** 公正取引委員会は、ふくおかファイナンシャルグループ（FFG）と十八銀行の経営統合計画を承認したと発表した。統合後の中小企業向け県内融資シェアは 65 ㍎と高水準だが、公取委は公正な競争環境が維持されると判断した。

**8 月 24 日** 長崎市立中学校の生徒会役員がいじめ対策などを議論する「中学校議会」が市議会議場であり、75 人が活発に意見を交わした。地方自治体の仕組みを学び主権者意識や政治への参画意欲を高めようと開き、今年で 3 回目となる。

**8 月 24 日** 九州・沖縄の特産品の情報を収集・発掘する「九州探検隊」プロジェクトに取り組んでいる博多大丸は、長崎市の特産品などの情報を発信する協定を市と結んだ。九州・沖縄の全 118 市が対象で、協定締結は 5 番目、県内では初めてとなる。

# 平成 30 年 長崎年表

**8月27日** 市は障害者雇用率算出の際に障害者手帳の期限が切れた人など2人を誤って参入していたと明らかにした。

**8月28日** ジャカルタで開かれているアジア大会のマラソンでメダルを獲得した井上大仁選手(25)と野上恵子選手(32)が、田上市長を表敬訪問した。

**8月28日** 核兵器廃絶を世界に訴える、日本の高校生平和大使20人が28日、ジュネーブの国連欧州本部を訪れ、各地で集めた約110,000人分の署名ジュネーブ軍縮会議の事務局に提出した。

**8月29日** 長崎みなとメディカルセンターを運営する市立病院機構がまとめた2017年度決算は、純利益が5億円となり、5年ぶりに黒字になった。

**8月29日** 西日本豪雨の被災地支援のために広島県や岡山県に派遣され、現地での活動を終えた市職員15人が市役所で田上市長らに活動の結果や被災地の様子を報告した。

**9月1日** 厳しい残暑の中、熱中症対策として、市内の小学校5校は4日から最長4日間、午前中授業にする。中学校2校も最長4日、6時間授業を5時間に短縮して日中の暑さを避ける。

**9月1日** 出津地区公民館が、近くの旧外海子ども博物館に移転、オープンした。世界遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の「外海の出津集落」にあり、地域住民の交流拠点に加え、観光客も利用できる休息スペースなどを設けた。

**9月1日** 厚生労働省は原爆被爆者の援護関連事業で1,281億円を計上した。被爆者の高齢化が進む中で被爆の実相を世界や次世代へ伝えるため、被爆した樹木の保存経費に初めて補助を出す。

**9月1日** 明治維新から150年の節目に合わせ、長崎の幕末・明治期ゆかりのスポットや人物に親しんでもらおうと市が開くイベント「ながさき幕末維新祭」のオープニングセレモニーが、グラバー園内長崎伝統芸能館であった。

**9月3日** 市は稲佐山の中腹と山頂を結ぶ「長崎ロープウェイ」が落雷の影響で故障し、1日から運休していると発表した。このほか、電波塔のライトアップ設備や、

山頂駐車場と駅とを結ぶ連絡通路「光のトンネル」の発光ダイオード(LED)も点灯しなくなっている。12日に運転を再開した。

**9月4日** 2019年のラグビーワールドカップ(W杯)日本大会の開催地、熊本県などで組織する熊本国際スポーツ大会推進事務局の代表と、大会アンバサダーを務める同県のPRキャラクター「くまモン」が市役所を訪れ、W杯開催をPRした。一方、スコットランドの公認キャンプ地となっている長崎市では田上市長が同国代表選手と市内の子どもたちの交流などを紹介した。

**9月4日** 市がJR長崎駅西側に計画しているMICE施設を含む複合施設を巡り、整備に反対する市民グループが、住民投票実施に必要な申請書を市に提出した。

**9月11日** 定例長崎市議会で、市は昨年度、農作物を食い荒らすイノシシとシカの捕獲数が過去最多の4,644頭だったことを明らかにした。イノシシとシカの捕獲数は2015年度までは約2,500頭だったのが、2016年度は約4,100頭と急増しており、今年7月末時点では、昨年同期と比べ1.4倍の1,557頭が捕獲されている。

**9月11日** ふるさと納税で一部自治体が高額な返礼品を呼び水に多くの寄付を集めているのは問題だとして、野田聖子総務大臣は記者会見で、制度を抜本的に見直す方針を正式表明した。返礼品を寄付額の30%以下の地場産品に限定する。違反した自治体は制度から除外し、寄付しても税の優遇措置を受けられなくなる仕組みを法制化する。同省が発表したふるさと納税高額返礼品に関する調査結果では、九州の64市町村が寄付額の30%を超える高額品を送り、42市町村が地場産品以外の返礼品を用意していた。長崎市は返礼品約470品目のうち、2割程度が寄付額の30%を超えており、来年4月までに30%以下に抑える。

**9月12日** 市は固定資産税と都市計画税について、1970年代以降の過徴収が新たに16件確認され、総額は約6,650,000円になると発表した。地方税法などにに基づき、過徴収から20年を経過していない計6,065,300円を返還する。市によると、15件では住宅が建てられた土地の課税標準額が減免される特例措置を適用せず、「非住宅用地」として課税していた。1973年から45年間、過徴収が続いていたケースもあった。来年度の算出に向けて書類を確認した際に発覚したという。残る1件は鉄骨製の建物を鉄筋コンクリート製と誤って評価し、課税額を算出した。所有者からの指摘で判明した。

# 平成 30 年 長崎年表

**9月14日** 田上市長が県市長会長として3月に上京し、ふくおかファイナンシャルグループ(FFG)と十八銀行の経営統合を審査していた公正取引委員会に統合を認めるよう求めたのは違法な働きかけとして、市民団体が市長に当時の出張旅費約100,000円を市に返還するよう求める住民監査請求をした。

**9月15日** 幕末から明治時代にかけて多くの外国人が暮らした東山手、南山手、大浦地区一帯で「長崎居留地まつり」が始まり、大勢の市民や観光客が多彩な催しを楽しんだ。

**9月15日** 被爆者の体験を次世代が受け継ぎ、伝えていく事業を進めている市は、「語り継ぐ被爆体験交流会」を原爆資料館で開いた。被爆講話者を目指す県内外の9人が、今年から講話を始めた先輩継承者や被爆者の話を聞いた。

**9月16日** 2020年東京オリンピックのポルトガル競泳代表チームが市内でオリンピック前にキャンプを実施することが決まった。県、市とポルトガル水泳連盟は基本合意書に調印した。

**9月17日** 田上市長は特別養護老人ホーム青葉苑（戸町4丁目）であった敬老会を訪ね、入所者で、女性では県内最高齢の内山マサエさん（111）に長寿を祝う顕彰状や花束を手渡した。

**9月18日** 市教育委員会は定例会市議会教育厚生委員会で、市立小学校60校のうち、来年6月までにエアコンを先行設置する12校を抽選により決定したと報告した。12校は深堀、土井首、山里、日見、川平、畝刈、鳴見台、朝日、高尾、戸石、矢上、茂木。

**9月18日** 市は定例会市議会総務委員会で、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録後の1か月（7月）で、「外海の出津集落」「外海の大野集落」「大浦天主堂」の3構成資産6施設全体の観光客数が前年同期に比べて、1.28倍の38,505人になったと明らかにした。

**9月18日** ベラルーシのルスラン・イエシン駐日大使が市役所に田上市長を表敬訪問した。市内で開かれた講演会に出席するために訪れ、爆心地公園での献花や、長崎東高校の生徒との意見交換会なども行った。

**9月20日** マイカーで視察に行ったにもかかわらず、公共交通機関の利用を装い政務活動費をだまし取ったとして、長崎警察署が詐欺と虚偽有印公文書作成・同行使の疑いで、市議会の吉原日出雄市議を長崎地方検察庁に14日付けで書類送検したことが20日分かった。吉原氏は今年4月、2015、2016年度に他人が給油した領収書などで政治活動費をだまし取った疑いで書類送検されており、今回で2回目となる。

**9月21日** 市議会は定例会最終本会議で、政務活動費の新たな不正受給が20日に表面化した吉原日出雄市議に対する議員辞職勧告決議案を全会一致で可決した。辞職勧告は昨年6月と今年6月に続き3度目。

**9月21日** 定例会市議会は最終本会議を開き、市がJR長崎駅西側で計画しているMICE施設の設備・運営を担う予定の特別目的会社と事業実施の正式契約を結ぶ議案について賛成多数で原案通り可決した。施設整備費は約216億円。来年8月に着工し、2021年11月に開業予定。特別目的会社は九電工などが出資し、整備、運営、MICE誘致を担う。市との契約期間は2041年10月まで。

**9月24日** ポルトガルのポルト市及びフランスのヴォスロール村との姉妹都市提携40周年並びに昨年11月にオランダのライデン市との姉妹都市提携を記念して、市長や議長をはじめとする公式訪問団、経済団及び市民訪問団が24日から10月3日にかけて各市村を訪問した。

**9月25日** 2019年4月に任期満了を迎える長崎市長選挙に、市議の橋本剛氏が無所属で立候補することを正式に表明した。

**9月26日** 国連が定める「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」の26日、国連本部で、核なき世界の実現を目指す会合が開かれた。グテレル事務総長は8月に現職として初めて「長崎原爆の日」の式典に参列した経験を紹介した。

**10月1日** 子ども福祉医療費の助成の対象を中学生通院分まで拡大した。

**10月1日** 景勝地や名産品などの図柄が入った自動車用ナンバープレートの交付が全国41地域で始まった。本県版は、スタンドグラスをイメージして、長崎市の平和祈念像と大浦天主堂、佐世保市のハウステンボスの風車を表している。

# 平成 30 年 長崎年表

**10月2日** 市は市内の40代の男性が3類感染症（パラチフス）に感染したと発表した。市内での発生は少なくとも2010年以降初めて。

**10月3日** 総務省が都道府県所在地を対象に毎年実施している家計調査によると、揚げかまぼこやちくわといった魚肉練り製品に対する長崎市の2017年の1世帯当たりの支出額は、2016年より423円少ない15,147円だったものの、2015年から3年連続で全国1位になった。

**10月4日** 有識者や市民ら45人でつくる長崎市総合計画審議会（杉原敏夫会長）は市役所で、市の施策に関する提言や評価をまとめた報告書を田上市長に提出した。審議会は、市が総合計画（2011～2020年度）に基づき昨年度実施した暮らしや経済、環境などに関する43分野の基本施策のうち27分野を抽出。4つの部会に分かれてチェックした。

**10月5日** 夜景を観光に生かす取り組みを報告する「夜景サミット」が札幌市で開かれた。「日本新三大夜景都市」として、前回に引き続き1位は長崎市、2位は札幌市が選ばれた。また、3位には新たに北九州市が選ばれた。

**10月5日** 市は観光振興に貢献したとして、長崎夜景のテーマ曲「長崎夜曲」を作曲した人気バイオリニストの葉加瀬太郎さんに感謝状を贈った。

**10月6日** 台風25号は6日朝、県内全域を暴風域に巻き込みながら本県に最接近した。県災害警戒本部によると、県内19市町が設置した計238か所の避難所に一時最大で1,343世帯1,679人が自主避難した。市内の男性1人が強風にあおられて転倒したほか、男性1人が足を滑らせ、それぞれ軽傷を負うなどした。長崎地方気象台によると、野母町で最大瞬間風速34.0メートルの猛烈な風を観測し10月の観測史上最大となった。田中町では堤防を乗り越えた高波によって市道が冠水し、一時通行止めとなった。

**10月7日** 江戸時代から続く諏訪神社の秋の大祭、長崎くんちが開幕した。今年の踊町は紺屋町、大黒町、出島町、小川町、東古川町、本古川町、樺島町。

**10月8日** 市などが主催する市民体育・レクリエーション祭の総合開会式が市総合運動公園かきどまり陸上競技場であり、選手約1,000人が青空の下で行進した。

**10月9日** 市は発達障害の子どもがいる保護者などが気軽に集まって交流し、悩みや相談を共有できる子育て支援センター「にじのくに」を三芳町の市営三芳住宅E棟1階に開設した。発達障害に特化した同センターの開設は県内では初めてとなる。

**10月9日** 市は台風25号の影響で世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」を構成する「端島炭坑（軍艦島）」の見学施設に損壊被害が出たと発表した。7日から上陸を禁止している。台風による損壊、上陸禁止は今年3回目となる。見学施設内の歩行通路約230メートルの左右の鉄柵がほぼ全壊したほか、通路外のがれきや土砂が通路や見学広場に流入していた。船が接岸する栈橋と、栈橋と島をつなぐ「連絡橋」でも、手すりが全壊した。建造物に目立った損壊はなかった。

**10月11日** アメリカが昨年12月、トランプ政権下で初めての臨界前核実験を実施していたことが明らかになったことを受け、田上市長と五輪市議会議長は連名で、「今後一切の核実験の中止を求める」などとする抗議文を同大統領あてに郵送した。

**10月12日** 地方創生に向けた「長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進展を有識者や市民が点検する審議会は、市が昨年度実施した各種施策に対する報告書を田上市長に提出した。委員らは、市が整備を計画しているMICE施設や、被爆地としての「平和」のイメージを生かしたビジネス・観光活性化への注力を要望した。

**10月13日** 田上市長は定例記者会見で、2021年に野母町で建設を計画している恐竜博物館に、姉妹都市であるオランダ・ライデン市の国立自然史博物館「ナチュラリス生物多様性センター」が所有する肉食恐竜ティラノサウルスの全身骨格の化石のレプリカを展示すると発表した。

**10月17日** 油圧機器メーカーKYBによる免震・制振装置のデータ改ざん問題で、市は長崎みなとメディカルセンターの建物2棟に不正な装置計23基が使われていたと発表した。

**10月19日** 市が出島町の国史跡「出島和蘭商館跡」と対岸の江戸町間に架けた「出島表門橋」が、公益社団法人日本デザイン振興会が選ぶ本年度のグッドデザイン賞を受賞した。歴史を生かした企画性や史跡保護に配慮した独自の構造、デザインが評価された。

# 平成 30 年 長崎年表

**10月24日** 地場ホテル運営会社「グラバーヒル」は、市がJR長崎駅西側に進めるMICE複合施設に開業するホテルに関し、アメリカ大手ホテル「ヒルトン」とフランチャイズ契約を結んだと発表した。契約は23日付。来年夏に着工し、2021年11月ごろの開業を目指す。

**10月24日** 国連軍縮週間(24~30日)に合わせ、被爆建造物「三菱兵器住吉トンネル工場跡」(住吉町)の内部公開が始まった。

**10月27日** 原爆犠牲者の追悼や世界平和、核兵器廃絶を訴える「原爆犠牲者慰霊・世界平和祈念市民大行進」が平和公園などであり、約3,000人が市街地を歩いた。

**10月29日** 長崎大学坂本キャンパスへのバイオセーフイティーレベル4(BSL4)施設建設計画で、同大学は建築基準法に基づき、建築物の計画通知書を市に提出し受理された。

**10月31日** 市選挙管理委員会は、市のMICE施設整備計画の是非を問う住民投票を目指し市民グループが集めた署名の有効数は7,971人分だったと発表した。市内有権者数(9月3日現在)の50分の1(7,176人)を超え、地方自治法に基づく規定数を超えた。

**11月1日** 政務活動費の不正受給で市議会から議員辞職勧告を3回受けていた吉原日出雄議員は、五輪市議会議長に議員辞職願を提出し、許可された。

**11月2日** 市監査委員は、田上市長が県市長会長として3月に上京し、ふくおかファイナンシャルグループと十八銀行の経営統合を承認するよう公正取引委員会に要望したのは違法として行為の是正を求めた住民監査請求を却下した。要望時の出張費の返還請求についても棄却した。

**11月6日** 「長崎原爆遺跡」として国史跡に指定されている「旧城山国民学校校舎」の外壁の一部が崩れていたことが市の原爆遺跡保存・整備委員会で報告された。

**11月6日** 核兵器廃絶や世界平和の実現に向け、NGO「平和首長会議」の国内加盟都市会議が5、6日の両日、岐阜県高山市で開かれ、各国のメディアを通じて被爆者の思いを発信することなどを決めた。全国81の自治体から約130人が参加。

**11月8日** 市は工事設計に必要な見積もりを偽造し、

上司に虚偽の説明をしたなどとして、まちづくり部長崎駅周辺整備室の男性技師を停職1か月の懲戒処分にしたと発表した。管理監督責任などを問い、上司ら3人も文書訓告などとした。

**11月9日** 市がJR長崎駅西側に進めるMICE施設整備計画の是非を問う住民投票を目指す市民グループが、投票実施のための条例制定を田上市長に直接請求した。市は受理した。

**11月12日** 「市民防火のつどい」が、長崎ブリックホールであり、火災のない安全な町づくりを地域で長年すすめてきた1団体と婦人防火クラブなどの会長25人が表彰された。市婦人防火クラブ連絡協議会などが毎年開き、50回目。約1,200人が集まった。

**11月13日** 経営破たんした旧五島産業汽船(新上五島町)から長崎一鯛ノ浦(同町)航路を引き継いだ同名の新会社は、新ダイヤを発表した。町所有の大型高速船を加え2隻体制とし、16日から旧会社時代の1日3往復を復活させる。

**11月14日** 核保有国と非保有国の有識者が核軍縮の方策を考える「賢人会議」の会合が始まった。会合は非公開で15日まで開催。核兵器の削減・廃絶へ乗り越えるべき課題を特定し、解決策を模索する。

**11月16日** 国内外の非政府組織(NGO)関係者らが核兵器のない世界の実現に向け議論する「核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」が平和会館で始まった。3日間の日程で、核兵器廃絶や被爆体験の継承などをテーマに4分科会で議論を交わす。

**11月17日** 市内の児童が考えたまちづくりに関するアイデアの発表会が消防局であり、「まちづくり賞」を受賞した小学1~5年の計18人が、長崎らしさ創造力あふれるアイデアを田上市長に提案した。

**11月17日** 「2018長崎ベイサイドマラソン&ウォーク」が17、18日、長崎水辺の森公園を発着するコースで行われ、約5,000人が参加した。

**11月18日** 「核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」は平和会館で閉会集会を開いた。政府に対しては核兵器禁止条約に署名し国内外の信頼を取り戻すよう求める「長崎アピール2018」を採択した。参加者は核廃絶を願い横断幕を掲げて近くの爆心地公園まで行進した。

# 平成 30 年 長崎年表

**11月20日** 長崎自動車道の日見夢大橋(全長 373.5 ㎞)の完成を記念した渡り初め式があり、地元の園児ら約 100 人が橋を歩き祝った。

**11月21日** 市は老朽化で倒壊の恐れがあった香焼町の木造空き家を解体する行政代執行を開始した。2015 年施行の空き家対策特別措置法に基づく対応。県によると所有者を特定している空き家を行政代執行するの県内で初めて。

**11月22日** 市指定史跡「心田庵」(片淵 2 丁目)の一般公開が始まり、市民らが赤く色づいた日本庭園を楽しんでいる。唐通事の何兆晋(かちょうしん)が 1668 年ごろに建てた別荘。ヤマモミジなど約 300 本の樹木で埋まる庭園に、かやぶき屋根の建物がそびえる。茶屋横の庭先にあるテーブルの表面をのぞけば、庭園風景が映る「逆さ紅葉」を堪能できる。

**11月26日** 世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」が発表した「旅好きが選ぶ!日本の美術館・博物館ランキング 2018」で、長崎原爆資料館が博物館 1 位に初めて選ばれた。

**11月27日** 田上市長は市議会定例会議で、旧公会堂に代わる文化芸術ホールを旧県庁舎跡地に整備する方針について県と合意したことを報告した。

**11月29日** 長崎みなとメディカルセンターは、勤務する看護補助員が肺結核を発症していたと発表した。患者や職員ら約 400 人と接触しており、26 日から健康診断を実施して感染者の有無を調査している。

**12月4日** 長崎を訪問中のカルロス・ベレイラ駐日キューバ大使が、市役所で田上市長と面会し、キューバが核兵器禁止条約に世界で 5 番目に批准したことを伝え、核廃絶の重要性を訴えた。

**12月10日** 爆心地から 12 ㎞以内の被爆未指定地域で原爆に遭った「被爆体験者」161 人が県と市に被爆者健康手帳の交付を求めた第 2 陣控訴審の判決が福岡高裁であった。矢尾渉裁判長は、原告のうち 10 人を被爆者と認めた一審判決を取り消し、全員の訴えを退けた。

**12月12日** 県や市、長崎商工会議所、長崎大などの県内産学官 10 団体は、長崎港の松が枝埠頭に大型船が 2 隻同時に着岸できる 2 パース化を早期事業化するよう国土交通省や自民党本部に要望した。

**12月14日** 長崎ブリックホール開館 20 周年を記念した感謝祭が、茂里町の同ホールで始まった。

**12月14日** 原爆資料館の施設管理などを一括委託する指定管理制導入の条例改正案が市議会でも可決された。市平和推進課によると、条例案では 2019 年 9 月から資料館と平和会館、市歴史民俗資料館の維持管理や点検、原爆資料館図書室の資料整理などの業務を一括して民間業者へ委託する。

**12月14日** 定例長崎市議会は最終本会議で、市民グループが請求した M I C E 施設整備の是非を問う住民投票条例案を賛成 12、反対 25 の反対多数で否決した。市民から請求された住民投票の条例制定案が否決されたのは 2016 年以降 5 度目。

**12月14日** 定例長崎市議会は最終本会議で、学校給食費について、市が保護者から直接徴収する公会計方式を来年度から導入する関連条例案などを可決し、閉会した。また世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の旧グラバー住宅の保存修理工事に関する議案など 40 議案を原案通り可決、同意した。ほかに各地域への新たな交付金制度を定める「まちづくり推進条例案」は、条例施行日を 11 月から来年 3 月に変更するなどして修正可決した。

**12月17日** 市は盗撮目的で小型カメラを職場の女子トイレに設置したとして、市環境部東工場の男性主事を 17 日付で停職 3 か月の懲戒処分にしたと発表した。

**12月18日** 政府は人口の東京一極集中を是正するため、地域の経済や住民生活を支える拠点となる「中核中核都市」として、長崎市や佐世保市など 82 市を選んだと発表した。

**12月20日** 市は被爆樹木の保存整備費に充てる「クスノキ基金」の寄付受付を開始し、市役所本館と原爆資料館に募金箱を設置した。クスノキ基金は、シンガーソングライター、福山雅治さんが呼びかけた「クスノキ募金」が母体。

**12月22日** 油木町の市科学館常設展示室が 1997 年の開館以来初めてリニューアルオープンした。記念セレモニーに、名誉館長で本県出身のキャスター、草野仁さんから約 30 人が出席し、祝った。

**12月25日** 公的機関の障害者雇用率(6月1日時点)について、長崎労働局は県内で法定雇用率を達成できな



# 平成 30 年 長崎年表

かったのは 40 機関のうち 18 機関で、昨年よりも 4 機関増えたと発表した。同労働局のまとめによると、法定雇用率が 2.5 割の長崎市の雇用率 2.44 割(前年は 2.53 割)、法定雇用率が 2.4 割の市教委の雇用率は 2.89 割(前年は 2.63 割) だった。

**12月26日** 九州新幹線長崎ルートで建設予定のトンネル(全 31 本)のうち最長の「新長崎トンネル」(延長 7,400 米)の貫通式が、天神町の同トンネル内であった。事業主体の鉄道建設・運輸施設整備支援機構によると、工事区間は天神町ー現川町。2014 年 5 月に着工した。

**12月27日** 長崎大学が坂本町に設置を計画している感染症研究施設 B S L 4 について、施設的设计概要が建築基準法などを満たしているとして市は確認済証を同大学に交付した。

**12月28日** 仕事納め式で田上市長は「世界文化遺産や M I C E 施設を含む交流拠点施設、『地域コミュニティ』の仕組みづくりなど、プロジェクトが進んだ 1 年だった。12 月にはローマ法王フランシスコが来年末に来崎する意向を示した。心から歓迎したい。」と述べた。

**12月28日** 通販大手のジャパネットホールディングスは、三菱重工長崎造船所幸町工場跡地のサッカー専用スタジアム建設計画を「長崎スタジアムプロジェクト」と命名し、周辺に整備するホテルなどを「大型多機能複合施設」として一体化させる構想を明らかにした。